

## 第2部 生活復興感

### 第1章 生活復興感尺度

「生活の充実度」「生活の満足度」「将来への明るい展望」の3つについて質問項目を設けた。具体的には、生活の充実度に関しては、「あなたは現在の生活を震災前の生活と比べてどのように感じておられますか」として、「仕事の量は」「忙しく活動的な生活を送ることは」「自分のしていることに生きがいを感じることは」「まわりの人びととうまくつきあっていくことは」「日常生活を楽しく送ることは」「自分の将来は明るいと感じることは」「元気ではつらつとしていることは」の7項目に対して「かなり減った—かなり増えた」までの5選択肢で回答を求めた。生活の満足度については、「あなたは現在、つぎにあげたことがらについて、どの程度満足されていますか。」として、「毎日のくらしに」「ご自分の健康に」「今の人間関係に」「今の家計の状態に」「今の家庭生活に」「ご自分の仕事に」の6項目に対して「たいへん不満である—たいへん満足している」の5選択肢で回答を求めた。将来の明るい展望については、「1年後のあなたを想像してください。あなたは今よりも生活が良くなっていると思いますか、どうですか。」に対して、「かなり良くなる—かなり悪くなる」まで5選択肢を与えた。これら3種類の質問を質問紙の中で、異なった場所ですずねた。

得られた回答により、これらの14質問項目が最初の目論見どおり「生活復興感」という一つの潜在変数をはかっているかどうか確かめるために、因子分析を行った。その結果、1因子が抽出された。このことにより、14質問項目は確かにひとつの潜在変数を測っており、その因子をあらためて「生活復興感」と名づけ、その因子得点をもって「生活復興感」得点とした。この得点は高ければ高いほど、現実への適応度が高く、復興感を高く持っていることを表す(表1)。

表1：生活復興感尺度：因子分析（主因子法）

		因子負荷量	共通性
問29	震災前と比べて増えましたか？減りましたか？		
1	仕事の量は？	0.158	0.025
2	忙しく活動的な生活は？	0.549	0.301
3	生きがいを感じる事は？	0.721	0.519
4	まわりの人とのつきあいは？	0.608	0.367
5	日常生活を楽しく送る事は？	0.749	0.561
6	自分の将来を明るいと感じる事は？	0.765	0.585
7	元気ではつらつとしている事は？	0.78	0.609
問32	あなたの満足度は？		
1	毎日のくらしに	0.714	0.510
2	ご自分の健康に	0.560	0.314
3	今の人間関係に	0.633	0.400
4	今の家計の状態に	0.563	0.316
5	今の家庭生活に	0.660	0.436
6	ご自分の仕事に	0.262	0.069
問41	1年後のあなたは？		
3	今より生活はよくなっていますか？	0.456	0.208
固有値		5.221	
寄与率(%)		37.296	

## <属性との関連>

### 女性の方が男性より生活復興感が高い(図1)

性別との関連において、有意な(統計的に意味のある)差が見られた。女性の方が男性より生活復興感が高いことがわかった。

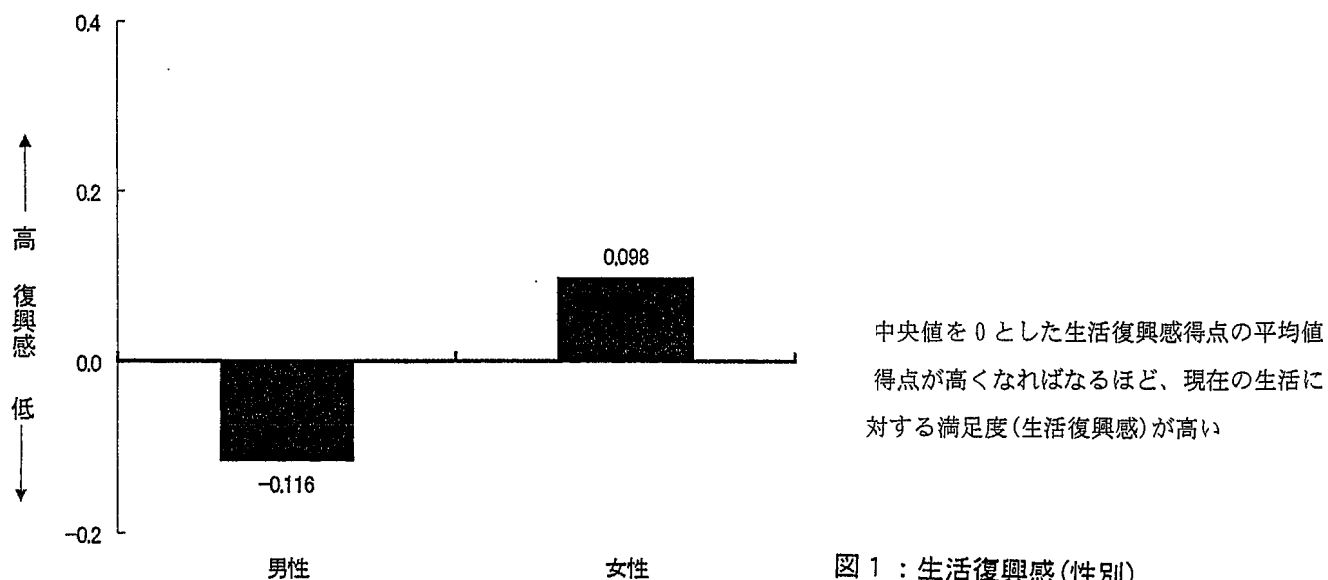


図1：生活復興感(性別)

### 20・30代の生活復興感が高い(図2)

年代との関連において、有意な差が見られた。20・30代の若い世代の生活復興感が、40・50代、60以上に比べて、高かった。

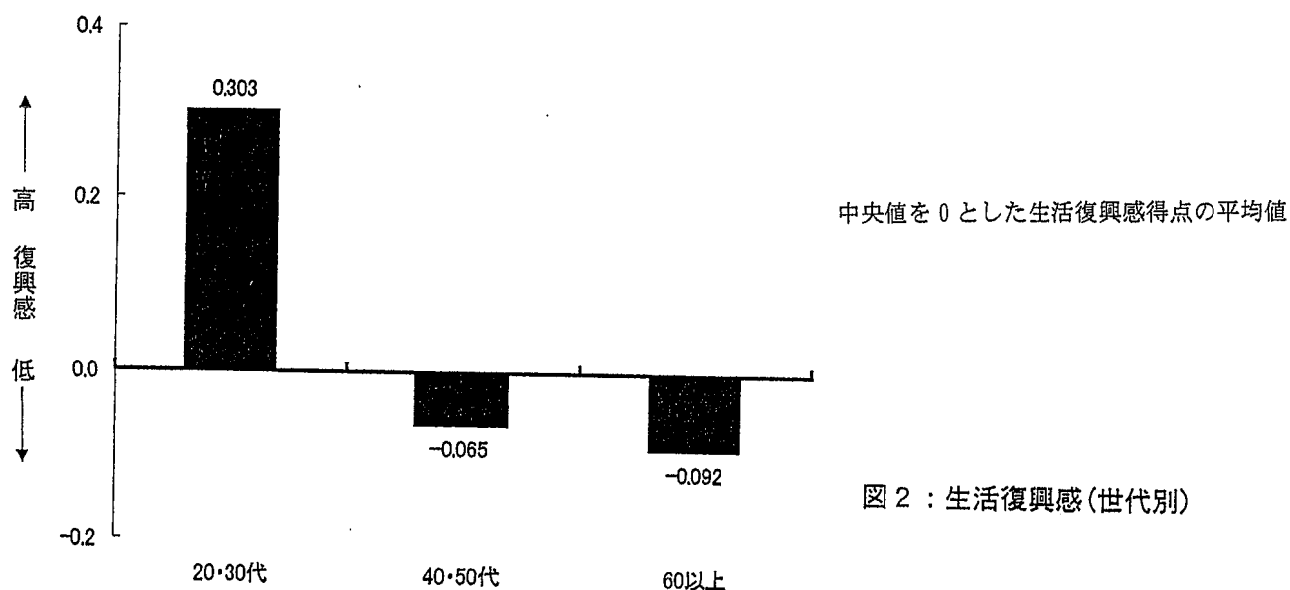
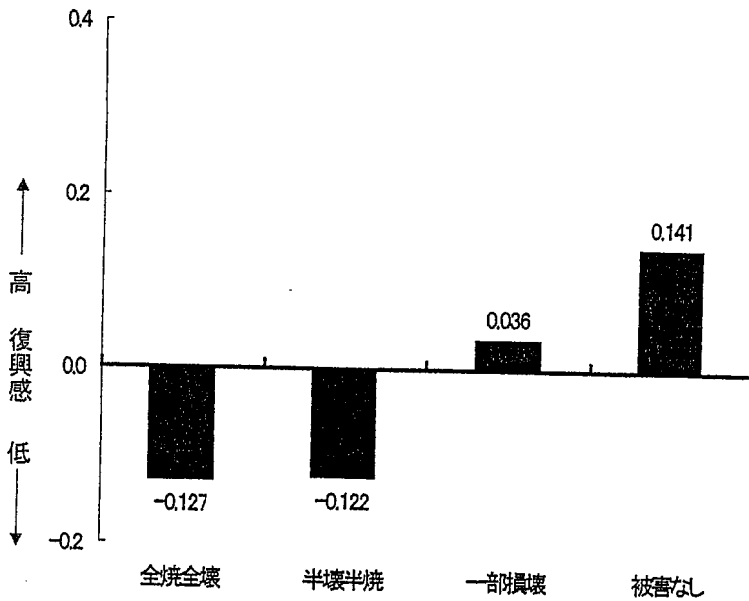


図2：生活復興感(世代別)

家屋被害程度が全壊全焼、半壊半焼の人は生活復興感が低い(図3)

家屋被害程度との関連において、有意な差が見られた。全壊全焼、半壊半焼の人はほぼ同じくらい生活復興感が低いことがわかった。被害なしは最も生活復興感が高い。続いて一部損壊が高かった。



中央値を0とした生活復興感得点の平均値  
得点が高くなればなるほど、現在の生活に  
対する満足度(生活復興感)が高い

図3：生活復興感(家屋被害程度別)